

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 人権の尊重と公平性の確保

アクション説明

相手を一個人として尊重し、敬意をもって接するための呼びかけ方として、全員を「さん」付けで呼ぶ。

実践方法

- ・「さん」付けで呼ぶことの背景や呼ばないことのデメリットを教員間で共有する機会を設ける。
- ・全ての教育活動で実践する。

得られる効果

ニックネームや愛称を使わず一律の呼称を用いることで、特定の生徒が「特別扱い」されていると感じる状況を防ぐ。生徒の性別による区別なく、誰もが平等に尊重されているというメッセージを明確に伝えることが可能となる。

実施のポイント

全ての教員が意識する必要がある。特定の生徒だけニックネームや呼び捨てをすると、より際立ってしまい、ねらいとは逆の効果を得てしまう可能性がある。



Z-1
DSTP

DSTP授業チェック

全教育
課程

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒 全ての生徒

ねらい ユニバーサルデザインの視点で全ての生徒が資質・能力を向上できるように授業をめざす

アクション説明

全ての生徒が資質・能力を向上できるように、ユニバーサルデザインの視点で授業に関するチェックリストを作成し、教科をこえてDSTPアクションを行えるようにする。

実践方法

- ・研究推進委員会でDSTPチェックリストを作成する。
- ・校内研修会でDSTP授業チェックシートを使い、個人で授業や教育活動を振り返る。

得られる効果

本校の在籍歴や教員歴に関係なく、本校のめざすDSTPを視点とした授業づくりの考え方を共有することができる。教科をこえて授業づくりの考え方を共有することができる。

実施のポイント

教科特性を大切にしながら、ユニバーサルデザインの視点で本校で統一したいことを明確にする。異動したばかりの教員や経験の浅い教員には、まずこのチェックリストを活用してDSTPの具体的なイメージをもてるようにする。

誰一人生徒を取り残さない支援体制の構築に向けて

～授業を進めるうえで意識する点と、教科特性を考慮して意識する点～

授業の進め方

【共通】

- ☐ 教師が教室に入るとき、挨拶をしている(2)
- ☐ 床に放置してある私物や靴、ぞうきん、ゴミがあれば、即座に片付けさせている(3)
- ☐ 授業開始のチャイムが鳴るときには、教師も教室にいる
- ☐ チャイムオープン・クローズ（チャイムと同時に授業・終業）をしている(1)
- ※生徒はチャイム着席（座ってチャイムを聞く）ができています
- ☐ 始業・終業の挨拶「目を見て挨拶」「語先後礼」を意識して行っている(3)
- ☐ 呼名（朝学活、全授業で）（敬称は男女ともに「さん」）(5)、(2)
- ☐ 不在生徒の把握（出席簿への記入、職員室や保健室への連絡）
- ☐ 「めあて」の提示（期待するゴールを明確にした具体的なもの）し、終業まで残している(6)
- ☐ 「流れ」の提示（作業の流れを明確に伝える）
- ☐ 説明の際には他の作業をやめて静かにさせ、体ごと教員の方を向かせている(2)
- ☐ めあてに対応した「まとめ」の提示
- ☐ クロームブックを使った振り返りの実施（指示）(2)
- ☐ 振り返りを確認し、次の授業に反映させる

【発展】

- ☐ 教室に入るとき、生徒より先に、生徒より元気な声で挨拶をしている(2)
- ☐ 始業・終業の挨拶「目を見て挨拶」「語先後礼」を、できるまで徹底している(3)
- ☐ 出席確認の呼名をしながら、生徒の表情や姿勢等を観察している(5)



H-6
オンライン

オンライン配信授業

全教科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 何らかの理由で、教室で授業が受けられない生徒

ねらい 教室で授業が受けられない生徒の学びを保障することができる

アクション説明

毎日、毎時間、全ての授業をオンラインで配信する。不登校生徒、校内の教室外にいる生徒、体調不良、入院等で授業が受けられない生徒が授業を受けられるようにする。

実践方法

- ・全教員が授業開始時にClassroomにあるMeetを立ち上げる。

得られる効果

何らかの理由で教室で授業が受けられない生徒の学びを保障することができる。過去、集団に適応できず不登校になった生徒が、オンライン授業によって集団に慣れるきっかけになった事例がある。

実施のポイント

ヒューマンエラーゼロをめざし、朝学活の時に担任が配信用PCを立ち上げておく。出席簿に配信再確認カードを貼り付けるなどの工夫を行う。電子黒板、黒板の両方を見られるように準備する。



一日7はい運動

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

コミュニケーションを取られない生徒 ／調子を崩している生徒

ねらい

生徒の声・表情から生徒の様子を把握し、教員とのコミュニケーションの場にする

アクション説明

朝学活、毎時間の授業冒頭で全員呼名をして返事をさせ、教員はその表情も確認する(返事の徹底と表情の確認を徹底する)。

実践方法

- ・担任または授業担当者が出席簿を使って一人ひとり呼名を行う。
- ・生徒が返事をした際、表情も同時に観察する。

得られる効果

学校生活の中でコミュニケーションをとることが少ない生徒にとって、コミュニケーションをとる場が保障される。返事の声や表情から生徒の実態を把握する手がかりとなる。

実施のポイント

教員は返事をさせるだけでなく、表情を注意深く観察する。声がいつもより小さかったり、表情が曇ったりした場合、すぐに対応を考える必要がある。



H-5
オンライン

振り返り▶家庭学習課題

全教科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

教室で授業を受けられなかった生徒／授業内で振り返りを終えられなかった生徒

ねらい

いつでも、どこでも学んだことを振り返られる

アクション説明

教室外の生徒や未完了者に対し、オンラインで授業内容の振り返りを実施できるようにする。これにより、学習機会を確保し、学習の定着を図る。また、振り返り等で授業の理解度を把握し、理解度にあった家庭学習課題を選択できるようにする。

実践方法

- ・フォームやスプレッドシートで振り返りを作成する。
- ・Classroomに添付し、生徒が自分のタイミングで振り返りが行えるように設定する。
- ・自分の理解度振り返り、理解度にあう家庭学習を選択する

得られる効果

さまざまな授業の受け方でも、平等に学習内容を定着させる機会を提供できる。「いつでも、どこでも」振り返りが可能になることで、生徒は自身のペースや都合に合わせて学習を進められる。授業の理解度に合わせて個別最適な家庭学習ができる。

実施のポイント

- ・全ての授業で実施できるように全教員のオンラインスキルを向上させる。学校全体で他教科の事例を共有し、授業内容に合う振り返りを目指す。生徒がどこにアクセスすれば良いか明確にする必要がある。
- ・理解度にあった家庭学習を用意する。



回答を入力

今日の授業は理解できましたか？ *

- ☐ できた
- ☐ まあまあできた
- ☐ あまりできなかった
- ☐ できなかった



長期休業中の宿題原則無

全教科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 長期休業中も個別最適な学びを行うことができる

アクション説明

塾などですでに学校の学習内容を先取りしている生徒にとっては一律の共通課題は「時間の無駄」を強いる。一方、学力不振の生徒にとっては、精神的負担となり、登校しぶりにつながることもある。そこで、長期休業中の家庭学習も個別最適化を図る。

実践方法

- ・課長期休業中の宿題（共通課題）は原則なしにすることを事前に保護者・生徒とともに伝える。
- ・授業内・学年通信等で個別の家庭学習アドバイスは示す。

得られる効果

長期休業中、自分の実力にあった課題を選択でき、無駄なく学習を進めることができる。生徒に自分の実力に合わせて課題を選択させることで、学びに向かう力を育むことができる。

実施のポイント

- ・生徒に示す課題を共通課題と個別課題に分ける。ちなみに、共通課題は、次時の授業を効率的に進めるため、授業の中でそのために時間をさく、主に準備学習として全員共通取り組ませる課題。（例：言葉の意味調べ）



B-5
意欲向上

運動会種目：組ダンス

特別
活動

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒

年齢・性別関係なく全ての生徒

ねらい

生徒が違いを認め合いながらダンスを楽しむことができる

アクション説明

本校では多くの中学校が運動会種目や行進で求める「より速く、より強く、よりそろえて」以上に「より楽しく、多様性を認めて」を大事にしており、その象徴的な種目の1つが「組ダンス」である。

実践方法

- ・2人組・3人組・5人組・7人組といった組まないと踊れないダンスの振付を覚える。
- ・メンバーを変えながらさまざまな仲間と踊り、最終的には全校で踊られるようにする。

得られる効果

仲間と組んで踊らないといけない振付を通して、安心感の中で自らを表現できる。さまざまな仲間と踊ることで一人ひとりの違いを感じられ、インクルーシブ教育や性自認や性的指向に関わる人権教育の推進につながる。

実施のポイント

振付動画を活用して主体的な学習を促す。振付を完璧に踊るのではなく、いかに仲間と楽しく踊れるかを保障するために、振付を間違っても大丈夫という雰囲気づくりをする。



[レクチャー動画集](#)



運動会種目：チャレンジ「投」

特別
活動

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒

運動能力に関係なく全ての生徒

ねらい

結果の不確定を保障した競技で運動能力に関係なく運動を楽しむ

アクション説明

本校では多くの中学校が運動会種目や行進で求める「より速く、より強く、よりそろえて」以上に「より楽しく、多様性を認めて」を大事にしており、その象徴的な種目の1つが「チャレンジ投」である。

実践方法

- ・ペットボトル、机、そしてペットボトルを倒せるものをいくつか用意する(ハンドボール、フリスビー、お手玉など)。
- ・机の上にペットボトルを置き、3m程度の位置から投げ、時間内にペットボトルを何本倒せるか競う。

得られる効果

運動能力に左右されない運動であるため、運動能力にかかわらず全生徒が楽しむことができる。結果の不確定性が高いので、モチベーションが下がりにくい。

実施のポイント

ペットボトルに水を入れ、少し倒れにくくするなどの工夫を行う。フリスビーは一度に3つくらい倒せる可能性があるなど、ペアで投げるものの特性に合わせて、投げる順番等を工夫することができる。



段階別内省

道徳

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 授業での気づきから考えを深めようとする生徒

ねらい 授業での多様な気づきを言語化すること

アクション説明

終末の発問を段階別に用意し、思考を促すようにする。

実践方法

- ・授業のめあてと評価基準を基に、発問内容を内省的な内容、周囲へ向けての働きかけなどに分けて提示する。

得られる効果

1つの問いを用いていたときよりも、生徒も自身の道徳的心情や判断力、実践意欲などが見取りやすくなる。

実施のポイント

評価基準を基に、自己中心的→他者配慮→社会的責任→普遍的価値となるような発問を作成する。「なぜその選択肢を選んだのか」を言語化
・共有する時間を設けることで、さらに思考の深まりを促す。

めあて
「自分らしさ」について考え、それを大切にするために必要なことについて考えることができる

自分に+1

次の中から1つ選んでノートにまとめよう。

- ・あなたの強みと弱みは、どんなところに生かせるだろう
- ・「自分らしさ」を大切にするために必要なことはなんだろう
- ・今日の授業の中で特に大切だと感じたこととその理由

※ノートに書く際は、何についてまとめたのかも書いておいてください。



職場体験報告会

総合

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 授業での気づきから考えを深めようとする生徒

ねらい 自身の学びについて他者に分かりやすく伝えることができる

アクション説明

8年生が7年生に向けて職場体験での学びをプレゼンテーションする。

実践方法

- ・8年生は職場体験で学んだ内容についてスライドにまとめる。
- ・7年生は小グループに分ける。
- ・体験先毎に7年生に対しプレゼンテーションを実施する。

得られる効果

聞き手を意識することでプレゼンテーションの技能が向上する。また7年生は発表の仕方を学ぶことや、次年度に向けての期待をもつことができる。

実施のポイント

体験の内容をまとめるだけでなく、学んだことをまとめるように指導する。聞き手を意識させ、プレゼンテーションを飽きさせない工夫を入れるように指導する。



B-1
意欲向上

さんずいリレー

国語

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

グループワークが苦手な生徒／書字が苦手な生徒／自ら書く作業をしない生徒

ねらい

チームビルディング／書字への意欲向上

アクション説明

チームを組み、「さんずい」が部首となる漢字を、一つのプリントに思いつく限り協力して書き込む。ルールを明確化し、チームづくりに向けた雰囲気づくりを重要視して実施する。

実践方法

- ・流れや全体でおさえるポイントを意識してプリント作成を行う。
- ・ルールを明確にし、ゴールビジョンをもたせるように準備を行う。
- ・詳細な準備は右下リンクを参照する。

得られる効果

内容はよくあるものだが、「チームビルディングがねらいであること」を生徒に提示するなどの工夫により、自分たちで役割を考えて取り組むようになる。続けて行うグループ学習に対して、和やかな雰囲気に取り組むことができる。

実施のポイント

順番を決めることと、一番多く書くというゴールを明確にした上でルールにも余白をもたせることで、次に向けて準備をする生徒、流れを考えて指示をする生徒など役割を自分たちで考えて行動するようになる。

グループワーク

1. 1分以内に「さんずい」の字をできるだけ書こう！
▶順番に一人ずつ書く。▶思いつかなかったらフォロー

2. 何個書けたか数えてみよう！

[ワークシートはこちらから](#)



F-1
個性を
活かす

グルーピング調査

国語

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

話し合いやグループワークに積極的に参加できない状態の生徒

ねらい

自分の力をいかし、グループワークに参加を促す

アクション説明

実施するグループワークの作業の中で、生徒の得意・苦手をフォームで調査する。調査内容に基づき、得意な要素が生かされるようグルーピングを行う。

実践方法

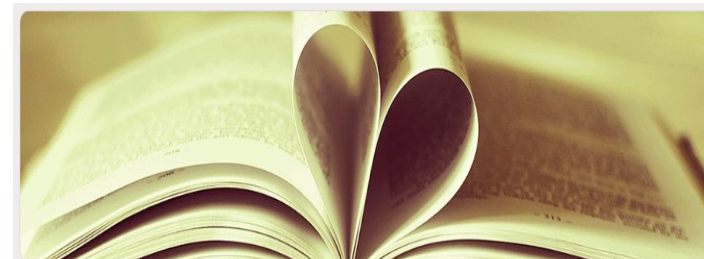
- ・グループワークに応じて必要な能力を考え、アンケートを作成する。
- ・アンケートを実施した後、振り分けるための基準を考えておく。
- ・詳細な準備などは右下リンクを参照する。

得られる効果

生徒自身が考える良いところをグループの中で発揮することを意識させることで、何もしない生徒は減少する。役割が明確になり、グループでの作業効率も向上する。

実施のポイント

生徒は他者と比較した能力を答えがちなもので、生徒が考える自分の得意・苦手を考えさせることで自己有用感を育むことができる。自分の考える力と、他者から見た力が比例するとは限らないため、アンケート結果だけでなく最終調整は必須となる。



【グループワーク調査】

次の授業では、グループワークを行います。4～5人で1組を作る予定ですが、できる限り強みを生かして取り組めるようにしたいと思っていますので、協力をお願いします。

* 必須の質問です

自分のクラスを選んでください*

[使用したフォームはこちら](#)



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 自分の力に合わせた学習を望む生徒

ねらい 学習者のレベルに合わせた教材を自動生成し、働き方改革を促進

アクション説明

GeminiのCanvas機能とリアクトを使用し、擬似的なアプリケーションを作成する。学習内容を記入し参考資料を読み込ませることで、AIが授業内容に合わせた4段階のレベルで問題を作成する。作成された問題を用いて、プリントを作成する。

実践方法

- ・GeminiのCanvas機能を用いることで、リアクトによる疑似アプリケーションを作成する。
- ・必要に応じてカスタマイズする。
- ・手順を含め、詳細な準備などは右下リンクを参照する。

得られる効果

4段階の振り返りに応じ、レベル別の問題を自動で作成するため、授業後に家庭で学習に取り組みたい生徒に向けた教材作成の時間を短縮することができる。

実施のポイント

ICT関連に苦手意識のある教員は、手引きに従えば導入が可能である。理想の問題が出力されとは限らないため、現段階では参考利用が望ましい。Geminiに指示をすれば、カスタマイズも可能となる。

[使用手引きはこちら](#)

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 作文が得意が得意な生徒／作文が苦手な生徒

ねらい 個に応じた課題の充実

アクション説明

レベル別に作文の課題を設定し、提示する。生徒はそれぞれが書きたい、または書けそうだと思う課題を選択し作文に取り組む。

実践方法

- ・文字数や内容が異なる作文課題を用意する。
- ・書きやすいものをレベル1とし、何段階かのレベル別課題を提示する。
- ・生徒はそこから自分に合ったものを選んで作文を書く。

得られる効果

レベルに応じて題材や文字数を変えることで、作文に苦手意識のある生徒にとってはハードルが下がり、得意な生徒は、より挑戦しようとする意識が生まれる。

実施のポイント

なるべくどのレベルも生徒が書きやすそうな課題を選ぶ。都立高校の推薦入試の過去問が教育委員会のサイトに載っているため、その中から課題を設定すると、生徒のモチベーションも上がる。

レベル1
テーマ「」
文字数：200字

レベル2
テーマ「」
文字数：300字

レベル3
・・・



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

内容をまとめることが苦手な生徒を中心とした全ての生徒

ねらい

個に応じた学習活動の充実

アクション説明

レベル別に作文の課題(内容・文字数など)を設定し、生徒はそれを選択して取り組む。自分で思考して書くことや、作文の型に沿って文章を書くこと、穴埋めで作文するなど、生徒の状況に応じた選択肢を用意する。

実践方法

- ・説明文の要旨をまとめる活動では、問題提起・筆者の考えを確認してまとめる。(PCを活用)
- ・筆者の考えにつながる本論の内容を書き加えて文字数を増やしていく。

得られる効果

PCで、空欄を埋める形式の作文から始めることで、書くことや作文に苦手意識のある生徒が活動に入りやすくなる。また、得意な生徒も速やかにまとめ、推敲できるようになる。

実施のポイント

課題の難易度や生徒の理解の状況に応じてPCでの作文、作文用紙での記述など、使い分けていく。書くことに苦手意識のある生徒が多い場合は一人一台端末を活用し、作文のフォーマットに沿って書くことから始める。

①「ペンギンの防寒着」を200字程度で要約しよう。

＜例＞序論「問題提起」と結論「答え」だけでまとめると、124字程度にしかない。
200字程度にするためには、本論も活用して言葉を補うことが大切。

＜要約しよう＞

要約	字数
ペンギンたちはどのようにしてこの厳しい寒さをしのいでいるのか、保温のしくみを探っていくと、	128
ペンギンは、脂肪層、皮膚、空気層、羽根、羽根に塗られた脂という、いわば五枚の層によってつくられた高性能の防寒着に身を包んで寒さから身を守っていることがわかる。	

めあて 文章全体の要点をまとめることができる。	同 クジラはどうやって飲み水を飲んでいるのか。	仮説1 海水を飲むことができる。	【検証】クジラの（体の）はたらく（ ） ↓（体の）はたらく（ ）と体のはたらくは同じ	仮説2 食べ物から水分を得る。	【検証】クジラの食べ物（仮説） ↓（仮説）の割合が海水と同じ	（反論）海水と食べ物と一緒に食べられるのか。 ↓（海水）を吐き出す 飲んだ（食べ物）だけを胃に送る	答え 自らの体内で作る	①（仮説） 炭水化物 タンパク質 ↓（仮説） エネルギー	②余分な水分を失わないようになっている（排泄） ↓（仮説） 体で出る水のみで足りる可能性は低い	結論 体で出る水のみで足りる可能性は低い
----------------------------	----------------------------	---------------------	---	--------------------	-----------------------------------	---	----------------	--	---	-------------------------



オンライン

配信型授業

社会

業
授
援
支

教室外
支援

生活支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

对象生徒

教室に入ることが出来ない生徒

ねらい

教室に入ることが出来ない生徒に対しても授業を提供する

アクション説明

小テストや授業内容をデータで配信し、併せてキャプチャーボードで電子黒板に映されたPPTXを授業配信する。これにより、教室に入ることができない生徒に対しても、同一の授業を提供する。

实践方法

- ・キャプチャボードで電子黒板の内容をオンライン配信する。
- ・フォームによる復習小テストを実施する。
- ・授業データのPDF配信を行う。
- ・授業データはClassroomにて提出させる。

得られる効果

教室に入ることができなかったことによる学習の遅れを生じさせない。場所にとらわれず、小テストや課題などの学習活動に取り組むことができる。教室の内外を問わず、授業に参加した生徒に対し公平な評価をつけることが可能である。

実施のポイント

出席停止などの際にも実施し、授業の遅れを生まないように配慮する。データだけでなく、一人一台端末を忘れた生徒や、家庭学習用に希望のある生徒に向けて授業内容をプリントに印刷して渡せるよう配慮する。



自己選択型単元学習

社会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

特定の学習内容に苦手意識を感じている生徒／学習内容のさらなる定着を求める生徒

ねらい

学習ニーズに合わせた既習事項の確認・発展学習の機会を保障

アクション説明

単元のまとめりごとの学習映像と学習アプリを配信する。生徒自身の学習ニーズに合わせて選択し、学習できる機会を設定する。

実践方法

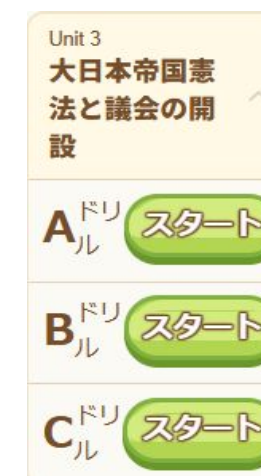
- ・Classroomに単元の学習内容に沿った映像資料と学習アプリの問題を配信する。
- ・生徒が自ら映像資料を視聴し、自分の課題に沿った学習アプリの問題に取り組ませる。

得られる効果

どの学習段階の生徒も取り残さず、選択的に学習に取り組ませることで、意欲的に疑問や関心を持ちながら知識・理解の定着ができるようになる。

実施のポイント

映像資料は映像配信サイト(無料で提供)にあるものを活用し、教師の負担を軽減する。学習アプリはすららを活用することで、教師の負担軽減に努められるとともに、生徒の学習段階に応じた問題設定ができる。



歴史百人一首

社会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 歴史の知識が豊富な生徒／さほど知識がない生徒

ねらい 既習事項の復習／思考力・判断力の育成

アクション説明

歴史上の人物の功績を基にした百人一首をスライドも使用し、句を画面上に表示し、視覚優位の生徒にも配慮する。（個人戦、グループ対戦、1人対複数などの変則対戦も可能である。）

実践方法

- ・上の句が詠まれた段階で札を取れるように、置かれた札を生徒に確認させる。
（札の内容を確認させるため、置く札の数を20枚から30枚程度にし、ゲームが進んだら札を足していく形が望ましい。）

得られる効果

歴史の知識に長けた生徒は上の句の段階でも自分で判断できれば札を取ることができ、知識が不十分な生徒についても下の句が読まれた段階で札をとることができるため、個別最適化を図りながら既習事項の復習を行うことが可能である。

実施のポイント

歴史の学習内容が定着している生徒に関しては上の句の情報から推察して札を取ることができ、定着が不十分な生徒も下の句が読まれたら取れるため、全員が積極的に参加することが可能である。極力、学習の定着度合いが同程度の対戦にした方がよい。

邪馬台国の
女王は卑弥呼

[歴史百人一首](#)



D-7
段階的
学習

学習ガイド

社会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 個に応じた家庭学習の充実

アクション説明

定期考査や長期休業前に、各生徒の学力やめざす目標に応じた、実践すべき学習を記載した学習ガイドを配布する。

実践方法

- ・全員がおさえておいてほしい基礎的・基本的な学習内容と、発展的な問題のワークなどでページを整理して提示する。

得られる効果

学習ガイドが4段階に分かれているため、生徒が自身の実力や目標に合わせて家庭学習を自己調整でき、無理なく、無駄なく学習を行うための支援となる。

実施のポイント

定期考査で高い点をめざす生徒がどの程度学習すべきなのかがわかるようになる。理解度別の学習プリントを作成することも有効である。

学習ガイド（よりよい家庭学習に向けて）

足軽 Lv.	旗本 Lv.	大名 Lv.	征夷大將軍 Lv.
<ul style="list-style-type: none"> ワークの基本問題を演習する。 ※㊦P. 4～7、10～11、14～15 ㊦ P.2～7/丸付け直し込み 			
<ul style="list-style-type: none"> 1 度演習したワークの問題で間違えた問題のみの演習を再度おこなう。 単元テストで出題された問題の復習を行う（資料の読み取り問題等）。 配布された基本学習のプリントに取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークの確かめ問題などに取り組む。 ㊦P. 8～9、12～13、16～17 ㊦ P.10～12（一部範囲外の問題あり） 配布されたプリント（入試にトライなど）に取り組む。 	
<ul style="list-style-type: none"> Chrome book を活用するなどして、理解が不十分な箇所を補う学習を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 新たに自らで課題を考え、学習に取り組み。（市販の問題集や学習塾の教材など） 	
<p>㊦YouTube：映像授業 Try IT</p> <p>「中学歴史 旧石器時代、四大文明、3つの宗教」</p> <p>「中学地理 世界のすがた1～6 世界の環境4～5」</p> <p>㊦すららドリル</p>			

学習ガイド



気候組み合わせゲーム

社会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

気候の学習内容の定着が十分な生徒／不十分な生徒

ねらい

気候の学習内容の定着／協働学習

アクション説明

グループ対抗でカードを引き、教科書で扱う気候の1月と7月の気温・降水量の組み合わせを作成する。また、どの気候帯と気候区であるかを判断させる。

実践方法

- ・地図帳などで雨温図を見ながら考えさせると、ゲーム終了後に知識の定着が図ることができる。
- ・グループで相談しながら、どの組み合わせをめざすか、どのカードを切るか相談させる。

得られる効果

どの気候の組み合わせをねらうのかをグループで相談して決めるため、学力を問わずに取り組み、既習事項を復習できるとともに、学力が高い生徒は気候帯や気候区の名称まで答えることができる。

実施のポイント

気候の学習が不十分な生徒であっても、他の生徒と相談しながら学習できるため、それぞれの気候の特徴を掴みやすくなる。雨温図の読み取りをする際の抵抗感がなくなる。

かなり高い←
(25 度以上)

かなり多い←
(200mm 以上)

気候組み合わせゲーム



対象生徒 空間認知能力が低い生徒

ねらい 空間図形のイメージを視覚的に捉えさせる

アクション説明

GeoGebraを活用し、「図形が回転して立体になる様子」をアニメーションで提示する。これにより、イメージを共有する。

実践方法

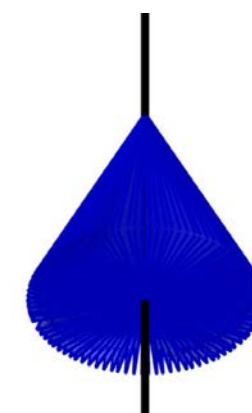
- ・GeoGebraのサイトから「回転体」で検索して扱う内容を探す。
- ・リンクを生徒に送り、自分のChromebookから操作できるようにする。

得られる効果

数学が苦手な生徒にも見て分かる安心感を与えることができる。回転体の構造が見える化され、抽象的な概念が具体化することが可能となる。

実施のポイント

教科書ではイメージしづらい奥行や図形の裏側などを見せることで取り組みやすくする。



[回転体 geogebra](#)



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 数学が苦手な生徒／数学が得意な生徒

ねらい 生徒が自分のペースで取り組めるようにする

アクション説明

入門から上級まで、レベル別の課題を用意する。生徒は自分の理解度に合わせて課題に取り組む。証明分野では、空欄補充や間違い探しなど段階的な内容とする。

実践方法

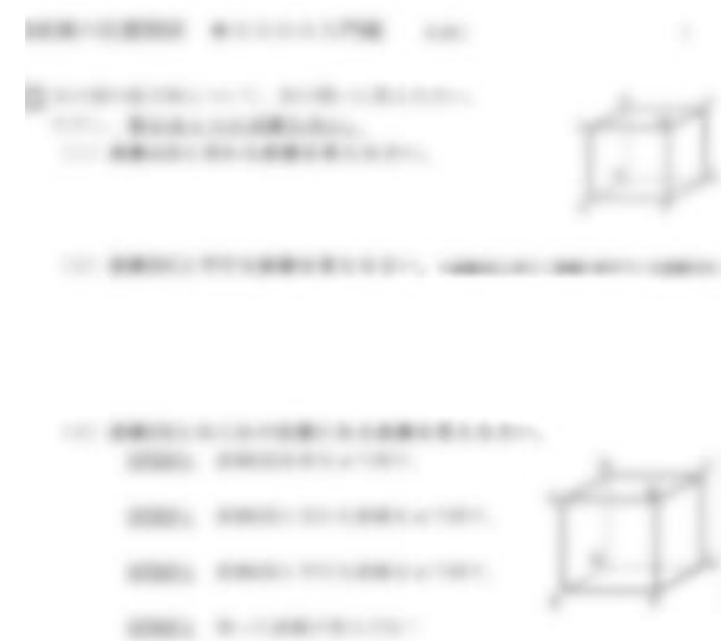
- ・レベルごとに問題を印刷して配布する。
- ・生徒は自己評価シートを参考に、取り組むべき問題を選択して解く。

得られる効果

基礎問題で「できた」という達成感を得ることで、次のステップへの意欲が高まる。また、難易度が徐々に上がることで、挑戦する姿勢が育まれる。

実施のポイント

都立入試の過去問を大問別にまとめた冊子を作成する。生徒が家庭学習や授業で重点を置く単元に取り組めるようにする。（自己調整学習）



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

自身の学びを深めようとしている生徒(苦手な生徒にも効果的)

ねらい

自分が真に対策すべき内容を考えさせ、自己決定させ、意欲向上を図る

アクション説明

都立入試の過去問を大問別にまとめた冊子を作成する。生徒が家庭学習や授業で重点を置く単元に取り組めるようにする。(自己調整学習)

実践方法

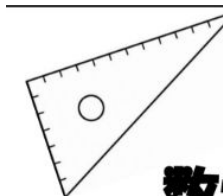
- ・過去問を大問別にしたプリントを印刷する。(とじ込みは生徒で)
- ・自分がどの冊子、どの問題に取り組むかを選択させる。

得られる効果

どのようにして目標点数に到達するか、自分の実力と照らし合わせ、メタ認知にもつながる。入試での得点力がつく。

実施のポイント

同じ大問を連続して解くことによって、問題のパターンを捉えることができる。自分に必要な大問を自分で選ぶため、意欲向上につながる。入試と同じ形式になるため、実戦力が身に付く。



数学 入試対策

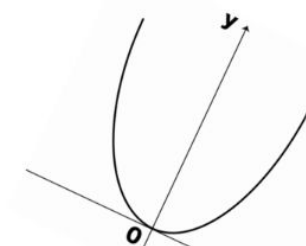


大問1パーフェクトへの分かれ道

都立大問1問7・8

(確率・資料・関数・図形)

過去問集



D-5
段階的
学習

習熟度別座席配置

数学

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 一人ひとりに適した指導、学習形態

アクション説明

座席配置を苦手集団・標準集団・得意集団で分ける。各集団に対し、苦手集団には入門問題で個別指導、標準集団には基礎問題の見直しや計算ミスを中心に机間指導、得意集団には思考力問題でヒントを出し協働解決を促す。

実践方法

- ・生徒に最初に確認をし、自分がどの段階で取り組みたいかを選択させる。
- ・段階別に課題を準備する。

得られる効果

習熟度の段階に合わせて、各々が課題となりやすいものを集団別にこちらが準備し、その形態で学習する。

実施のポイント

得意集団には思考力問題を提示し、ヒント程度で話し合いを活性化させ、「思考させる」指導を行う。標準集団には基礎問題の量をこなし、「分かる」から「解ける」ことを意識させる。苦手集団には基本問題を教員と一緒に取り組み「分かる」指導を行う。

苦手

標準

得意

教卓



F-4
個性を
活かす

教え合いを意図した座席配置

数学

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒 苦手生徒を中心とした全ての生徒

ねらい 苦手生徒への指導のしやすさ、得意生徒の理解度向上

アクション説明

比較的得意な生徒をばらけさせ、苦手な生徒の周囲に得意な生徒が配置されるよう座席を配置する。

実践方法

・得意生徒が周囲8人に教えることを前提に、苦手生徒の周囲に得意生徒が配置されるように席を決める。

得られる効果

苦手な生徒は、より細かく個別指導を受けやすい。得意な生徒は理解度の向上と数学への自信を付けやすくなる。

実施のポイント

得意な生徒は教えることによって内容を「深く理解する」こと、苦手な生徒は教えてもらうことで「理解できる」ため、双方にとって利点であることを伝え、より狙いを達成しやすくなる。

得

苦

苦

苦

苦

得

教卓



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 学びを深めようとする生徒

ねらい 授業中に質問ができない生徒の学習を支援する

アクション説明

クラスルームに質問フォームを設置する。授業中のみならず家庭での学習で生じた疑問を把握し、個別のアドバイスを行う。

実践方法

- ・フォームを用意し、質問しやすい環境を整備する。
- ・学習中の単元のみならず、数学に関する事柄であれば構わないことを伝え、生徒が主体的に学習を進められるように支援を行う。

得られる効果

授業内容の質問から進んだ内容の質問まで多岐に渡る。質問への返答はClassroomを通じて全体に共有することで、他の生徒の学びを深めることにもつながる。

実施のポイント

Classroomで返答を共有することで、他の生徒の学びを深め、質問をしやすい環境を整える。質問された項目の完全な解答・解説を与えるのではなく、ヒントや考えの手引きとなるように返答を作成する。

数学質問フォーム

ファイルを上記のリンク先からアップロードしてこのフォームを送信すると、Google アカウントに関連付けられている名前、メールアドレス、および写真が記録されます

* 必須の質問です

氏名を記入してください *

回答を入力

質問したい内容を記入してください。画像を添付する場合は下の質問に添付してください。

回答を入力

質問したい内容の画像等があれば添付してください。

最大 10 個のサポートされているファイルをアップロードします。1 ファイルあたりの最大サイズは 10 MB です。

添付 ファイルを追加

送信

返信

フォームをクッキー

[テンプレート](#)



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 数学が苦手な生徒

ねらい 生徒が主体的に学習に取り組む力を育む

アクション説明

事前に単元全体のめあてと毎時間の「めあて」を共有する。その時間の学び方を、①講義・演習（従来型授業）と②自学・協働（教材・進度を自己選択）から生徒にセレクトさせる。

実践方法

- ・単元指導計画を事前に共有して見通しを持たせる。
- ・授業開始時にその時間の学びを①②からセレクトさせる。
- ・授業中はファシリテーターとして、生徒の学習が進んでいるかを確認し支援にあたる。

得られる効果

生徒一人ひとりの進度に合わせて、学習を進めることや、支援を行いやすくなる。また教え合いを通じた生徒同士の交流も活発になる。

実施のポイント

計画→実践→内省の形を常に意識させ、自己改善を図るように促す。パフォーマンス課題やテストを用意し、単元の学習目標を分かりやすくする。フォームを利用した到達度テストをアップロードし生徒が自己評価できるようにする。



学習サイト作成

数学

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 自身の学びを深めようとしている生徒

ねらい 授業内容を振り返ったり、自力で学ぼうとしたりする生徒の支援

アクション説明

教科書付属のフォームやGemini、NotebookLM、GeoGebraなどを活用し、学習サイトを作成する。

実践方法

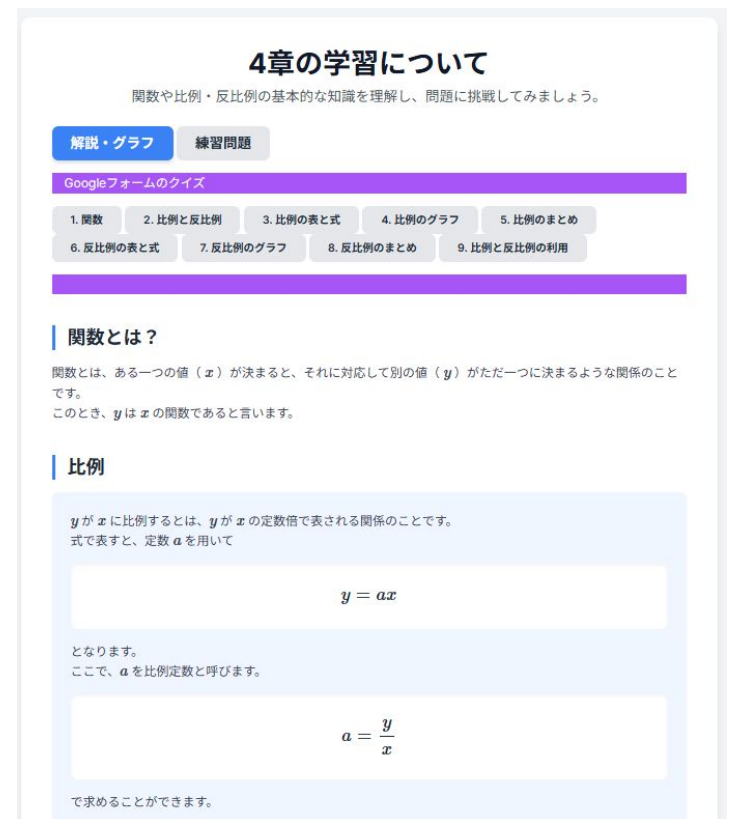
- ・学習アニメーションや解説動画等を生成AIを活用して作成する。
- ・フォームやGeoGebraで作成した教材を埋め込み、単元ごとに必要な教材をわかりやすくする。

得られる効果

フォームを活用することで、単元内容の定着度がすぐに評価でき、タブを切り替えることで単元を振り返ることも容易になる。

実施のポイント

単元ごとに教材を整理し、生徒が必要な情報を分かりやすくする。また、埋め込みコードを活用してアプリケーションなどの機能を実装する。



[学習サイトの見本はこちら](#)



C-1

知識定着

板書配信

数学

授業
支援教室外
支援生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 授業内容を見返すことができる

アクション説明

その日の授業内容の板書を写真で記録し、Classroomで共有する。

実践方法

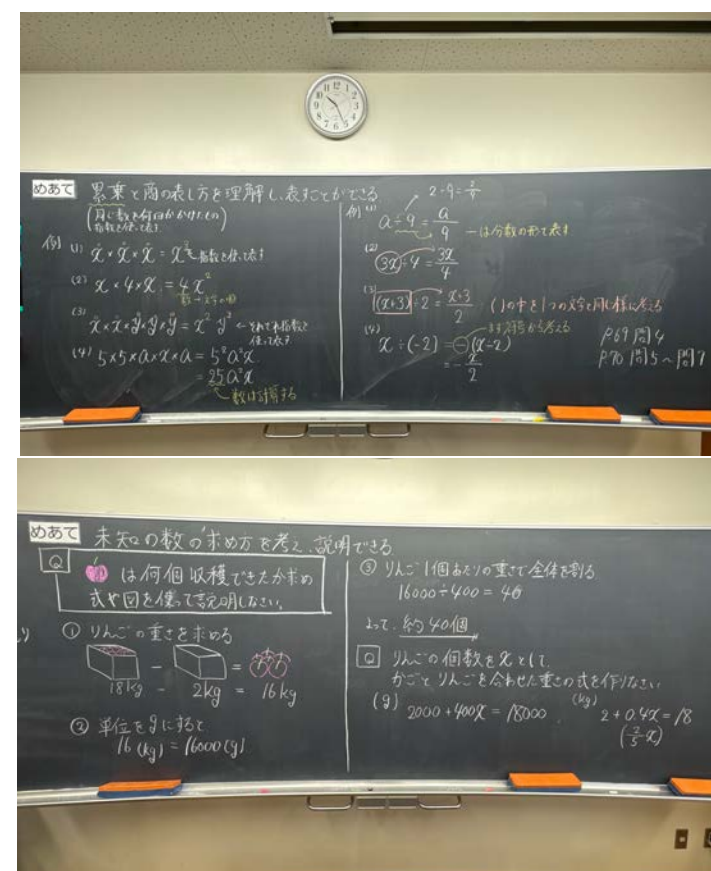
- ・授業後に板書を撮影し、配信する。
- ・授業プリントを使用する場合は、同時に添付し、どこにいても学びができる環境を整える。

得られる効果

時間内に板書を終えることのできない生徒や授業に参加できない生徒への支援につながる。また、前時の内容の振り返りなどにも活用可能である。

実施のポイント

板書はなるべく1枚に収まる形で配信する。生徒の考えは、電子黒板を用いて共有、集約する。その内容に関しても撮影して配信することで授業参加できていない生徒にも他の生徒の考えを伝える。



個別の課題提示

理科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 生徒の達成度(理解度)にあった、個別の課題を提示する

アクション説明

授業の振り返りフォームに生徒が入力後、めあての達成度(理解度)に応じて、個に応じた課題が表示される仕組みである。

実践方法

- ・振り返りフォームの最後に、授業に合わせた課題を入力しておく。
- ・授業の最後に、振り返りフォームに取り組ませる。
- ・個に応じた課題に取り組ませる。

得られる効果

授業の最後や家庭学習において、生徒が自分の理解度にあった問題や課題に取り組む手助けとなる。授業をオンラインで受けている生徒も、習熟度に応じたアドバイスができる。

実施のポイント

課題の提示は、問題集の問題などから、基本問題、応用問題、入試問題などを指示する。問題が解けない生徒については、教科書の読み込みや、ワークシートの整理を指示する。

5 セクション中 2 個目のセクション

めあての達成が「とてもよくできた人」へ

以下の内容に取り組みましょう

- ・教科書 P 36～を読んで酸とアルカリの正体は何か、予習をする
- ・学習整理 B 問題
- ・総まとめ問題集 B 問題

5 セクション中 3 個目のセクション

めあての達成が「まあまあできた人」へ

以下の内容に取り組みましょう

- ・教科書 P 36～を読んで酸とアルカリの正体は何か、予習をする
- ・教科書 P 24 の化学式を覚える
- ・学習整理 A 問題
- ・総まとめ問題集 A 問題

5 セクション中 4 個目のセクション

めあての達成が「あまりできなかった人」へ

以下の内容に取り組みましょう

- ・教科書 P 24 の化学式を覚えなおす
- ・反応の式を覚えなおす
- ・学習整理 P 6 に取り組む

5 セクション中 5 個目のセクション

めあての達成が「できなかった人」へ

以下の内容に取り組みましょう

- ・教科書 P 24 の化学式を覚えなおす
- ・反応の式を覚えなおす
- ・学習整理 P 6 に取り組む



理解度別実験班

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

実験が苦手な生徒／得意な生徒

ねらい

分からないところを共有し、協力して実験に望むことができる

アクション説明

小テストや定期考査の理解度に応じ、実験の班を編成する。

実践方法

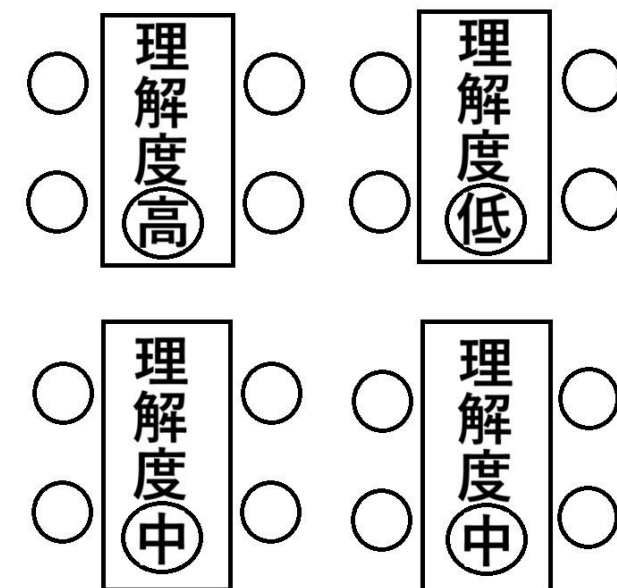
- ・テストの得点に応じて、男女の人数比も関係なく、理解度別の班を作る。
- ・得点力がある班はポイントだけ伝え、教員は理解度が低い生徒の班のフォローにあたる。

得られる効果

理解度別にすることで、実験が苦手な生徒の班は教員と相談しながら進め、得意な生徒の班は発展的な実験まで主体的に実施できる。

実施のポイント

発展的な実験内容や、理解を深める発問も準備しておく。



フローチャート

理科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 理解度が低い生徒

ねらい 解き方の手順を図で表し、生徒のつまづきを分かりやすくする

アクション説明

演習問題の求め方を示すフローチャートを提示する。

実践方法

- ・解き方について、スモールステップでフローチャートを作成しておく。

得られる効果

一人で問題を解きながら、どこでつまづくのかを自分で把握する。フローチャートを参考に、教科書の振り返りや、問題演習をし、理解を深める。家庭学習でも役立つ。

実施のポイント

場合によっては、小学校の内容(かけ算や割り算、分数の計算や小数など)に戻れるようなフローチャートを作成しておく。



H-2

オンライン

配信型授業

理科

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 教室に入ることが出来ない生徒

ねらい 教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する

アクション説明

Meetとキャプチャードによる授業配信を行う。Meetで参加している生徒には、授業で使っているワークシートや、フォームによる確認問題などを配信する。

実践方法

- ・キャプチャードで電子黒板の画像や動画、ワークシートを配信する。
- ・授業の終わりにフォームによるテストを行い、授業の内容を理解できていたか振り返りをさせる。

得られる効果

教室外でも授業を受けることができる。フォームによる確認問題は家庭でも行うことが可能である。

実施のポイント

授業に入ることができない生徒や欠席をしている生徒がワークシートなどを教室外から見るができる。フォームによるテストは自分のペースで行える。

① アブラナやツツジなどの、めしべの先端部分を〔 〕という。 1ポイント

回答を入力

② ①に花粉がつくことを〔 〕という。 1ポイント

回答を入力

③ めしべの下部のふくらんだ部分を〔 〕という。 1ポイント

回答を入力



イメージつなぎカード

音楽

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 授業にいる全ての生徒

ねらい 音のつながり方とイメージとの関わりが合うようカードを並べ、視覚的に理解させる

アクション説明

音のつながり方や俳句のイメージなどの言葉やイラストを表記したヒントカードを、各グループに1セット配布する。

実践方法

・音のつながりを示すカード(上行形等)とイメージを表すカード(盛り上がる等)を用意し、音のつながり【上行形】＝イメージ【盛り上がる感じ】をカードを並べ替えて視覚的に理解させる。

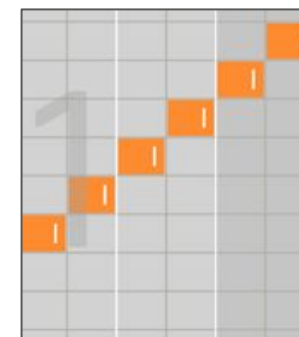
得られる効果

「音が○○になることで、◇◇なイメージになる」という関わりをカードを並べ変えながら考えることで関わりを視覚的に理解でき、どのような音楽をつくりたいか、創作の手立てにつながる。

実施のポイント

カトカトーンの画像を用いて音のつながりを示し、自分のつくった音のつながりとリンクして考えられるようにする。

上行形



盛り上がる



カトカトーン



H-3

オンライン

配信型授業

音楽

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 教室外で授業を受ける生徒

ねらい 教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する

アクション説明

Meetとキャプチャーボードによる授業配信に加え、クラスルームに授業内容のPDF形式データを配信する。

実践方法

- ・キャプチャーボードでカトカトーンの内容を配信する。
- ・授業内容をPDF形式で配信する。

得られる効果

教室外でも授業を受け、「カトカトーン」を活用して学習に取り組むことができる。また「カトカトーン」はWi-Fi環境がない場所でも利用できるため、家庭でも取り組むことが可能である。

実施のポイント

欠席者や教室外で授業を受ける生徒のために実施し、授業の遅れを生まないように配慮する。



F-3
個性を
活かす

グループ構成

音楽

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 自分の考えをもつことが苦手な生徒

ねらい 生徒間のコミュニケーションや意見交換を通して自分の考えや感じたことを言葉に表す

アクション説明

生徒同士のコミュニケーションや意見交換を通して、自分の考えや感じたことを言葉に表すことができるようグループを構成する。

実践方法

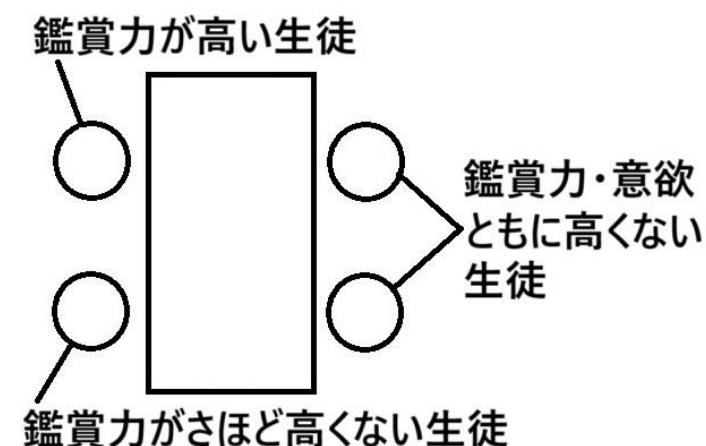
・これまでの成績や人間関係を基に予めグループを構成し、生徒同士で教え合える環境を整える。

得られる効果

友達の意見を聞くことで「自分はその意見に対してどう思うか」というところから自分の意見をもつことにつながり、どのような音楽をつくりたいか思考することにつなげることが可能である。

実施のポイント

各グループに成績上位の生徒やコミュニケーションが積極的な生徒を配置することで、自分の意見を共有しグループ内の生徒の視野や考え方を広げることができる。



G-1
リスク
回避

刃物ナンバリング

美術

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

人を傷つける危険性のある道具を使う授業を受ける生徒

ねらい

刃物の紛失を防止し、刃物を扱うことに対して生徒一人ひとりに責任感を持たせる

アクション説明

ハサミやカッターに番号を振り、対応する出席番号の生徒に使わせる。

実践方法

- ・ハサミやカッターにテプラで番号のシールを貼り付けて、鍵のかかる棚に保存する。
- ・出席番号と対応する生徒にハサミやカッターを手渡しする。

得られる効果

カッターや彫刻刀は他者を傷つける危険性がある道具であることを生徒たちに理解させる。自分の出席番号が書かれた道具を使わせることで自分事として捉えさせる効果がある。

実施のポイント

ハサミやカッターが他人や自分を傷つける可能性があるものであると自覚させ、必ず返却させることを義務付けさせる。



なんでもフォーム

美術

業
授
援
支

教室外
支援

生活支援

家庭学習アドバイス

ねらい 授業内で拾いきれない生徒の質問等を拾い、個別最適な学びを実現する

授業内で発言が苦手な生徒へのアドバイスが可能になる。生徒たちが質問をすることに対するハードルを下げるができる。

【なんでもフォーム】前回先生が牛乳嫌いって言ってたから僕も牛乳嫌いだから仲間がいてよかったと思った。

お！仲間ですね。牛乳かえり良く描けてます。この調子で！



F-2

個性を
活かす

鑑賞授業用班編成

美術

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 授業に参加する生徒

ねらい 作品の良さや味わいを対話的に鑑賞させるためのグループ編成をする

アクション説明

作品の制作進度や人間関係を基に美術室の席やグループを構成する。グループは、基本的に3名から4名での編成を想定している。

実践方法

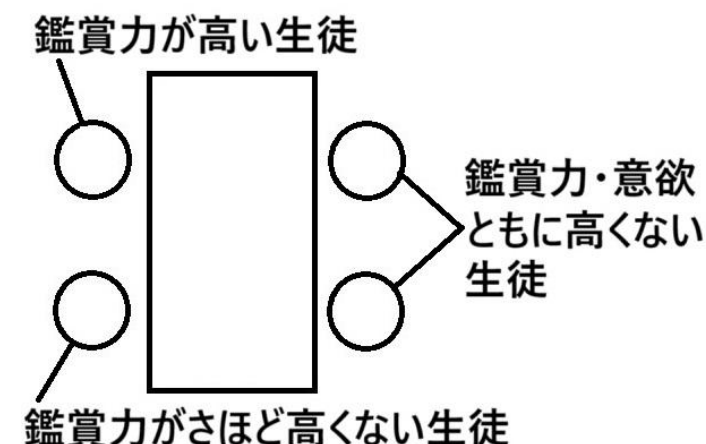
- ・生徒の特性を把握し、鑑賞が深まるようなグループを編成する。
- ・意欲的な生徒や、なかなか授業に参加することが苦手な生徒、意見が多角的な生徒などを組み合わせる。

得られる効果

言語化が苦手だが作品作りが得意な生徒や、言語化が得意だが作品作りは苦手な生徒など様々なタイプの生徒がいる。様々な特性の生徒を組み合わせることで、多様な意見が生まれる効果がある。

実施のポイント

作品のよさや味わいを対話を通して深めるための席を熟考し、グループの要になるであろう生徒には事前に声掛けを行う。特性を活かし鑑賞を深められるように促す。



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

能力差(性差・技能差 等)がある学習集団

ねらい

能力差があっても単元の特性を捉え、積極的・自主的に取り組むことができる

アクション説明

能力差が出やすい単元で、単元の特性を活かした誰でも楽しめる内容やルールを採用する。

実践方法

- ・キャッチバレー(球技ネット型)
- ・アルティメット(球技ゴール型)
- ・キックベース(球技ベースボール型)等、誰でも楽しめる内容を採用する。

得られる効果

内容やルールを工夫することで生徒の意欲や積極性が高まる。生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながる。

実施のポイント

技能差が出やすい単元でも特性を踏まえた上で、その差が出にくくなるような内容やルールに工夫する。

球 技

ゴール型
(アルティメット)

学習ノート



[アルティメット学習ノート](#)



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 能力差がある学習集団

ねらい 合理的な解決に向けて、自己の課題に合った練習場所を選択できる

アクション説明

技能差のある単位における技能別学習・コース選択学習を実施する。

実践方法

- ・初心者・初級コース
 - ・中級コース
 - ・上級コース(スモールティーチャー)
- のように習得レベルに合わせたコース設定を行う。

得られる効果

特に能力差が大きい単位では、技能の高い生徒も初心者レベルの生徒もそれぞれのレベルに合わせて課題解決方法を自身でセレクトすることで、より意欲的に活動することができる。

実施のポイント

技能差がある中で、各自が習得レベルに合わせて課題解決に取り組むことができる。上級者がスモールティーチャーになることで、協働的な学びをさらに深めることができる。



グループ学習

保健
体育

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 能力差がある学習集団

ねらい 自己やチームの課題を発見し、伝え合うことで協調性や主体性を高めることができる

アクション説明

種目の特性に合わせた階級別・技能別・能力別等のグループ活動を行う。

実践方法

- ・授業前に教員が分ける場合と授業中に生徒とともに分ける場合がある。
- ・グループ分けをした後、リーダーを決めて役割分担を行う。

得られる効果

自己やチーム（グループ）の課題を発見して、合理的な解決に向けて運動の取り組み方の工夫や互いへのアドバイスを受けて課題解決につなげることが可能である。

実施のポイント

グループ分けは事前の技能や計測したものを基に行う。ゼッケンを着て、自他ともにグループが分かるようにする。



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

見通しをもつことが苦手な生徒

ねらい

学習内容の見える化を図り、積極的・自主的な活動を促す

アクション説明

各單元ごとに学習内容が体系的に整理された「学習ノート」をデータで共有し、実施することの見える化を図る。

実践方法

・授業のオリエンテーション時にその単元の目標、授業の計画、技能のポイント等が体系的に整理された学習ノートをクラスルーム上に添付し、授業中や予習復習に使用させる。

得られる効果

学習内容の見える化を図ることで、予習・復習等、積極的・自主的に授業内容を深めることができ、技能の向上につながる。

実施のポイント

授業で説明ができなくても、学習ノートを見れば伝わることをめざし、目標、内容、授業計画、ポイント等をわかりやすく整理して作成する。

令和7年

球技

ネット型
(VOLLEYBALL)



バレーボール学習ノート



思考・判断・表現テスト

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 授業の内容を理解しているか確認する

アクション説明

授業の内容理解を図るため、フォームを使って思考・判断・表現テスト(記述問題)を実施する。

実践方法

- ・テストと同じ扱いにし、相談なしで実施する。
- ・問題内容にもよるが15分程度で実施する。
- ・A・B・Cで評価し、フィードバックする。

得られる効果

授業内容の理解度が確認できる。また、授業の中での実技が思考・判断してできているものなのか、技能優位でできているのか、思考・判断できているが技能不足でできないのかについて確認が可能である。

実施のポイント

授業の中で課題として提示してきた内容を示し、それをどう自分で課題解決してきたかを記述できるような内容設定にする。

【短距離走・リレー】思考判断表現問題

ロックモードが有効になっています。これまでの内容が失われないように、閉じる前にすべてのテストを完了してください。

* 必須の質問です

メール *

☐ 返信に表示するメールアドレスとして 203t18munakata.naoki@ita.ed.jp を記録する

■あなたの名前を教えてください (例) 宗形和隆 ※姓と名のスペースなし

思考・判断・表現テスト



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 視覚的なモデルを必要とする生徒

ねらい 大きく映し出された参考動画、効率的な技の習得につなげる

アクション説明

技の習得時、プロジェクターで自分と同じ大きさのモデルを投影する。

実践方法

- ・プロジェクターを準備する。
- ・モデルとなる映像資料をPC内に保存し、生徒が選択できるようにする。
(YouTubeの動画も可能)

得られる効果

参考動画を自分と同じくらいの大きさに映し出すことで、同期しながら技の習得を行うことができる。また、細部まで確認でき、より高度な技の習得も可能となる。

実施のポイント

鏡のようになるべく自分と同じ大きさになるように画面を調整する。生徒が自分で再生ができる映像資料を用意する。



進捗状況別座席

技術
家庭

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 作業のやり方や道具の使い方が分からず遅れてしまう生徒

ねらい 意欲向上・生徒同士の協働

アクション説明

進捗状況に応じ、作業を行う位置を変える。

実践方法

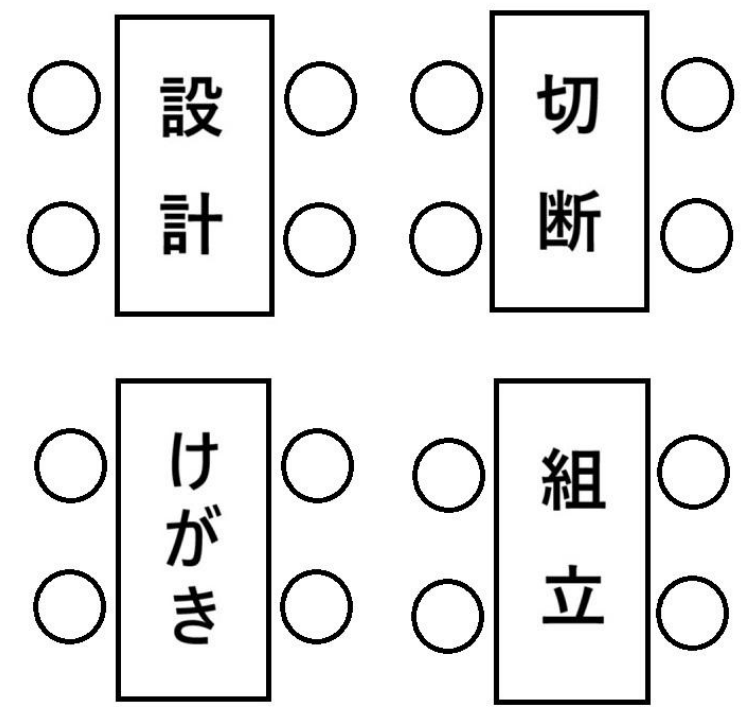
- ・実技の授業において、作業の進度が同等同士で班編成を行う。
- ・作業ごとに使用する机を設定する。

得られる効果

同じ作業を行う生徒が近くに集まることで生徒同士で教え合ったり助け合ったりして協働的な学びにつながる。また、教員は机間指導の効率が上がり広く視野をもつことができる。

実施のポイント

班内で互いにアドバイスし合ったり、進捗状況を確認できたりする様子が見られた。教員の声掛けの回数も減り、班ごとの説明が効果的に実施することができた。



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒

作品のイメージができない生徒／作業の手順が一度の説明では覚えられない生徒

ねらい

イメージしやすくしたり手順を何度も見返せるようにしたりする

アクション説明

完成品や手順を提示し、作業を視覚化する。

実践方法

- ・実技の手本動画をClassroomにアップし、生徒が視聴できるようにする。
- ・手順書や過去の作品例を提示する。

得られる効果

紙で用意したりモニタで提示したりクラスルームにアップロードしたりすることで、生徒は分らず手が止まることがなくなり、教員は全体指導で何度も同じ説明をする必要がなくなる。

実施のポイント

自分が確認したい作業過程の部分が繰り返し視聴できるため、作業を止めたり教員に聞きに行ったりせずに作業を行うことができる。説明文だけだと理解不足な生徒も、視覚化することで作業度が向上する。

⑨「カメラ」をダブルクリック！



⑩等角図を撮った写真をクリックして選択！



練習と道具の選択

技術

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 手動・電動工具に興味がある生徒／製作に自信のない生徒

ねらい 自信をもって作業を行えるようにする・成功体験を積む

アクション説明

不要となった材料で練習を行い、自分に合った道具を選択させる。

実践方法

- ・練習できるように端材を用意する。
- ・さまざまな道具の使い方を説明し準備する。

得られる効果

練習を行いながら自分のレベルに合った道具を選択し本番に挑むことができるため、誰もが成功体験を積むことができる。また、生徒同士でアドバイスをするなど協働的な学びにつながる。

実施のポイント

誰がどの道具を使っているのか把握できるようにする。

【下穴を空ける作業】

不安なし

不安あり

電動ドライバー
(有線・無線)

キリ



A-1
理解促進

家でプログラミング

技術

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 授業内での学習をより深めたい生徒

ねらい 復習・学習意欲の継続

アクション説明

Classroomに授業で扱ったプログラム例を載せることで自宅でも学習可能とする。

実践方法

- ・Classroomにリンクや画像を掲載する。

得られる効果

プログラミングは自宅でも行うことができるため、授業内での学習を復習することで理解を深めたり、より発展した内容のプログラムを組んだりすることができる。

実施のポイント

休みの生徒やオンラインで授業を受けている生徒も学習できるようにする。



D-4
段階的
学習

実技テストのデータ提出

家庭

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 全ての生徒

ねらい 実技テストを自分のペースで実施できる

アクション説明

授業内での実技の評価を公平かつ各自のペースで実施できるようChromebookの動画撮影機能を活用し実技テストを実施する。

実践方法

- ・一人一台端末を用いて、自分の実技の様子を動画で撮影する。

得られる効果

調理や裁縫などの実技テストが周りや時間に急かされることなく集中して実施できる。また、実技をデータで保存し提出させることで授業は指導に集中でき、各自の評価は時間外に確実にできる。

実施のポイント

二人一組で実施し、作業を互いに確認したりサポートしたりできる。授業後に自分の時間を使って作業ができ、提出漏れを防ぐことが可能である。欠席者や別室登校の生徒に対しては課題を提示し、放課後や別室で撮影した動画を提出することで、評価に加点することができる。



H-4

オンライン

配信型授業

英語

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 教室に入ることが出来ない生徒

ねらい 教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する

アクション説明

Meetとキャプチャードによる授業配信を行い、Meetで参加している生徒ともコミュニケーションを図る。また、授業内で使用したワークシートや解答をClassroomに載せる。

実践方法

- ・キャプチャードで電子黒板や板書の内容をオンライン配信
- ・Classroomなどの解答をPDF化し、クラスルームにて投稿

得られる効果

教室外でも授業を受けることができる。また、家庭学習にも取り組むことが可能である。

実施のポイント

欠席の生徒や教室に入れない生徒のために実施し、授業の遅れを生まないように配慮する。家庭学習が行うことができるようにする。



個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 学びを深めようとする生徒

ねらい 授業中に質問ができない生徒の学習を支援する

アクション説明

毎授業後に振り返りフォームを用いて、授業の理解度や質問を入力させ、個々の疑問を把握する。そして個別にアドバイスを行う。

実践方法

- ・フォームを用意し、少人数の各Classroomに投稿する
- ・振り返りの時間に教員がその場で生徒の返答を確認する

得られる効果

生徒が個々に質問しやすい環境づくりにつながる。また、質問への返答を授業中に行うことで復習や定着にもつながる。

実施のポイント

生徒からの質問にその場で答え、クラス全体で共有を図る。質問の内容によっては、Classroomを通じて個々に返答を行う。



F-5
個性を
活かす

ペア・グループ構成

英語

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

家 庭 学 習 ア ド バ イ ス

対象生徒 授業に参加している全ての生徒

ねらい 教え合いや活発なコミュニケーション活動を通して全員が授業に参加できるようにする

アクション説明

習熟度および人間関係を基に、ペアやグループを構成する。

実践方法

- ・教員が人間関係や習熟度を基に構成する。
- ・単元の内容によってペアやグループを変える。

得られる効果

間違いを恐れずに英語でコミュニケーション活動を行う生徒が増える。学力が高い生徒も教えることを通して、より深い学びを得ることが可能である。

実施のポイント

全員が活動に参加できるようにペア・グループなど環境を整える。協働し、学び合う時間を確保できるように構成する。



E-5
パーソナライズ

パフォーマンステスト

英語

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

個別最適な学び

協働的な学び

家庭学習アドバイス

対象生徒 学びを深めようとする生徒

ねらい 授業中だけでなく、自分のペースに合わせて準備をすることができる

アクション説明

1つのテーマについて調べ、スライド等を用いて自己表現をさせる。パフォーマンステストに向けて、英文の表現や構成のアドバイスを個々に行う。生徒は家庭でも練習することが可能である。

実践方法

- ・パフォーマンステストの内容や取り組み方をClassroomに投稿し、周知する。
- ・Classroomを通じて、文や内容についてアドバイスをを行う。

得られる効果

個々のレベルによって目標を設定し、それに向けて準備をすることが可能である。また、個々のアドバイスを基に家庭学習にもつなげることができる。

実施のポイント

教室外の生徒も含め、全員が自分のペースで取り組むことができる環境を作る。

英語

self-introduction スライド提出 国 1

期限: 7月14日

投稿日: 7月8日

自己紹介スライドをこちらに提出してください。
期限は7月14日（月）です。
必ず提出してください。

23

提出済み

10

割り当て済み

クラスのコメント1件

手順を表示

課題を確認する

